

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平1-77162

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成1年(1989)5月24日

F 16 H 25/24  
E 05 F 15/16  
F 16 H 25/20  
35/10

L-8814-3J  
7322-2E  
B-8814-3J  
E-8613-3J

審査請求 未請求 (全4頁)

⑮ 考案の名称 直線往復駆動ユニット

⑯ 実 願 昭62-174118

⑰ 出 願 昭62(1987)11月13日

⑱ 考 案 者 鶴 田 勝 也 愛知県岡崎市明大寺町兎ヶ入5-36

⑲ 出 願 人 中央発條株式会社 愛知県名古屋市緑区鳴海町字上汐田68番地

⑳ 代 理 人 弁理士 野 口 宏

㉑ 実用新案登録請求の範囲

- 1 管形をなし、長さ方向に沿って細長い開口を形成した本体の中空内に、ねじ棒を回転のみを自由に支持するとともに、該ねじ棒を前記本体の端部に固着したモータの出力軸に連結し、前記ねじ棒に、前記開口から突出して被駆動部材に連結される連結部を外周に形成した雌ねじ体を螺合し、前記本体に、前記ねじ棒の長さ方向に沿って常には閉塞した割り溝を形成した柔軟な弾性材料からなる易変形帯体を、前記開口を閉塞するように取り付け、該易変形帯体の前記割り溝を弾性変形させて押し広げることにより前記雌ねじ体の前記連結部を前記本体の外部に突出させたことを特徴とする直線往復駆動ユニット。
- 2 前記易変形帯体が軟質合成樹脂材料からなり、該易変形帯体が、硬質合成樹脂材料からなる取付体の間に一体に形成されていて、該取付体が前記本体に取り付けられていることを特徴

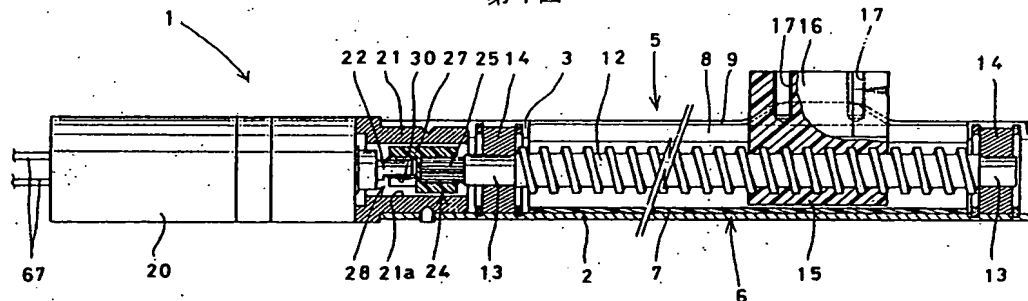
とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の直線往復駆動ユニット。

図面の簡単な説明

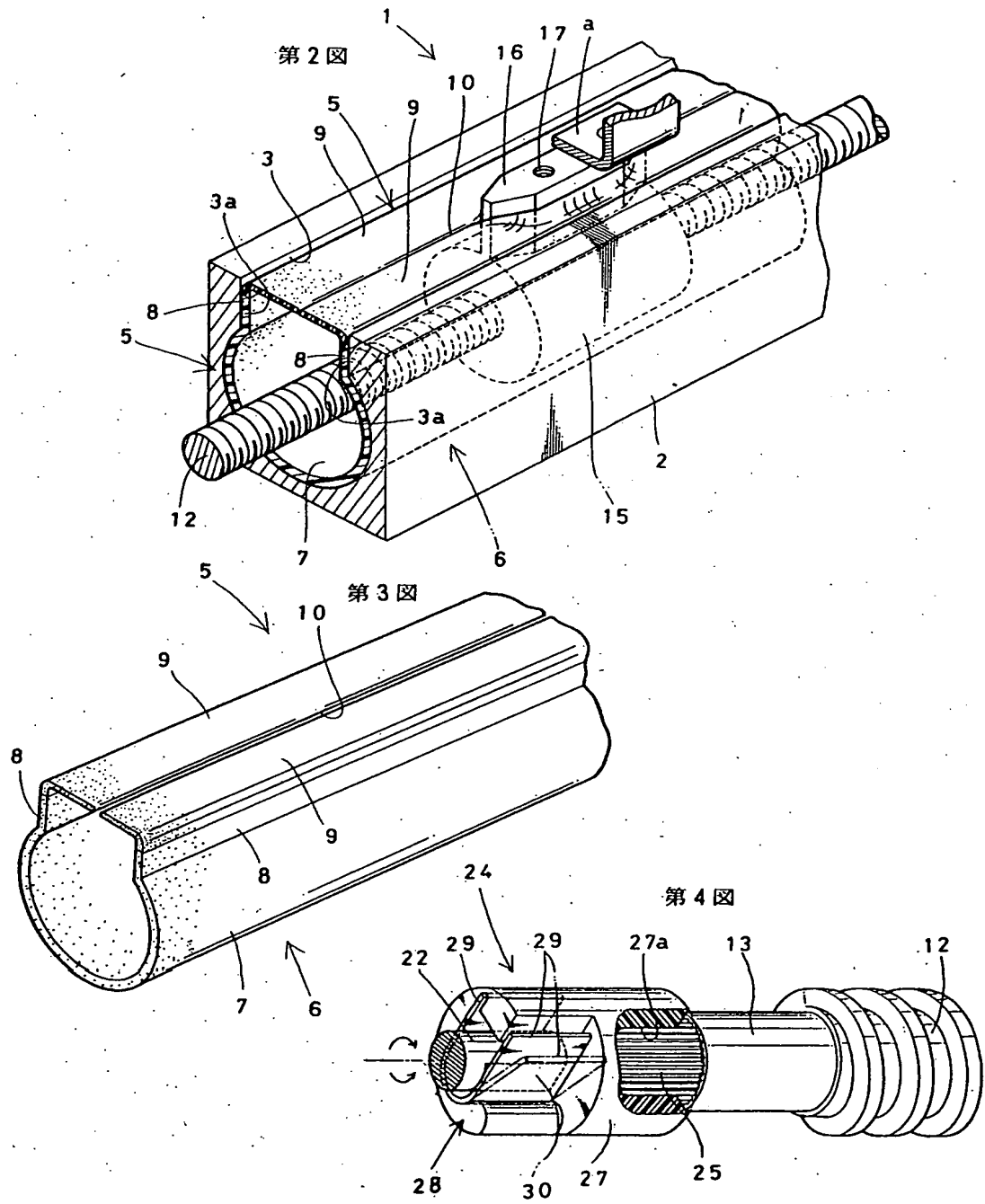
添付図面は本考案の実施例を示し、第1図乃至第4図は第1実施例であつて、第1図は縦断面図、第2図は一部の拡大斜視図、第3図は閉塞体の一部切欠斜視図、第4図はトルクリミッタの一部切欠斜視図であり、第5図は第2実施例の一部の斜視図、第6図はその閉塞体の一部切欠斜視図であり、第7図は第1実施例の直線往復駆動ユニットを引き違い窓の開閉駆動装置として用いた適用例の一部切欠斜視図、第8図はその部分拡大断面図である。

1, 31: 直線往復駆動ユニット、2, 32: 本体、3, 33: 開口、6, 36: 取付体、9, 39: 易変形帯部、10, 40: 割り溝、12: ねじ棒、15: 雌ねじ体、16: 連結部、20: 可逆モータ、22: 出力軸、a: 被駆動部材。

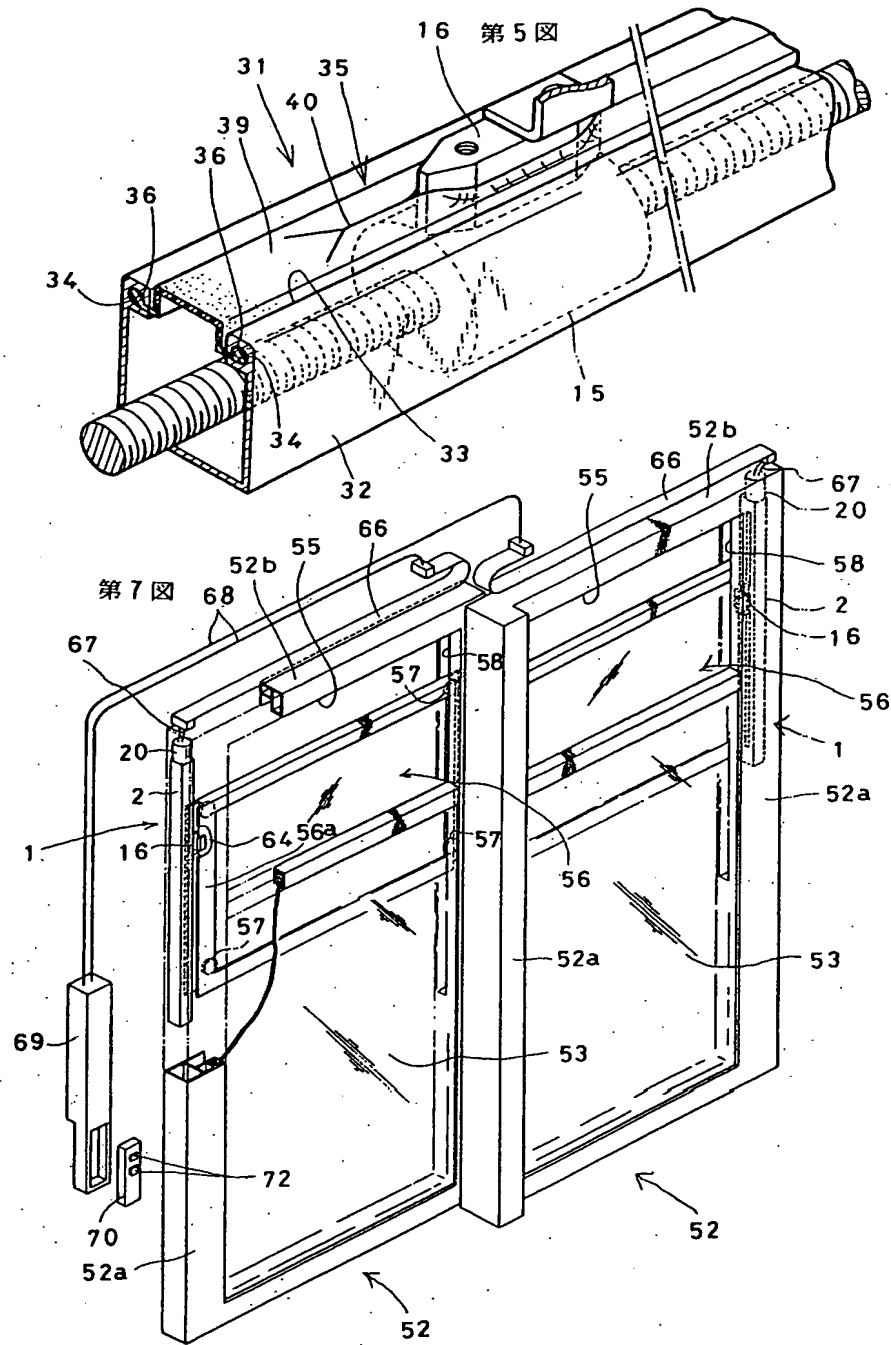
第1図



実開 平 1-77162 (2)

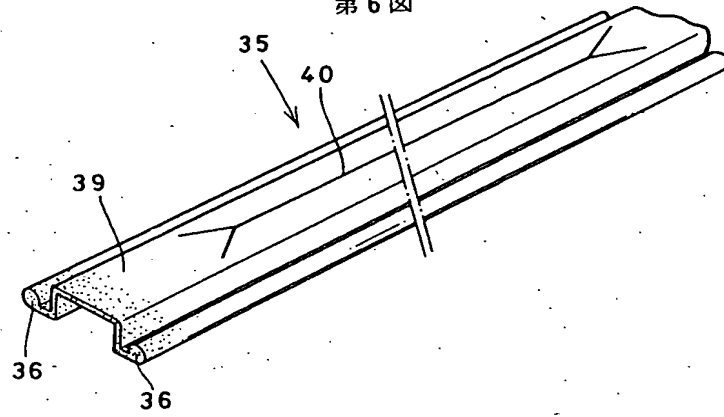


実開 平1-77162(3)



実開 平1-77162(4)

第6図



第8図

